

卷之六

卷之六

序



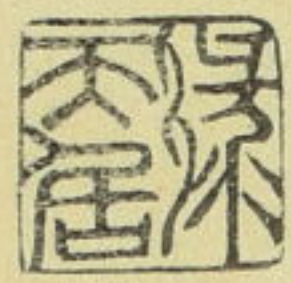
花之濃香。鳥之嬌音。是皆發其天機者也。發其天機也。宜於春。宜於夏。宜於秋。冬一年三百六十餘日。無一日不且悅人之耳目。而使目新於其所歡。耳新於其所聽。為又不覺悅濃香。嬌音。其艷色。毛彩。種種區別。可愛可玩。然



是月開落鳥有去來。故人各取之。左
右而送其愛翫。瓶插於瓶。養鳥於
籠。不一而足矣。於是因畫之。而插瓶養
鳥之情形。留艷色。毛彩於筆端。乃所以
以此冊云每。

壬辰花朝之日

鮑某居士識



海舶來禽圖彙說

關 盈文 撰

日本肥前崎陽二近來紅毛ノ海舶奇鳥ヲ持來了數回
十リ。衆人コレヲ珍賞ス。余ガ性原ヨリ諸鳥ヲ好翫ス。
嘗テ知己ニ便リテ親シク其鳥ヲ觀ル。毎ニ寫生シテ
遂ニ數十種ニ至ル。尤愛翫スルノ餘リ。鳥ノ狀態ヲ委
ク記シ添ルニ草木ノ品類ヲ奉テ諸說ヲ引證シ。上梓
シテ以テ冊子トナシ。同好ノ人ニオクリ。睡餘ノ一覽
ニ備フル而已。

壽帶鳥

和語シユタイチヨウ
清音ジウタイテヤウ

圖會壽帶鳥山鵲而小頭有披帶長尾

按ルニ壽帶鳥ハ、山鵲ニ似テ尾長冠尾翼尾ニ紺碧色

ニシテ腹白ク喉頰淡黒ク背淡紫ニ眼觜脚尾ニ紅シ

雌ハ觜脚黄青ノカハレルノミ、其余ハ雄ニ同シ

松和名マツ、王安石カ字説ニ、松拍ハ百木ノ長トス、猶公

伯ノ如シ、故ニ松ハ公ニ从ヒ拍ハ伯ニ从ト、サレテ五

雜俎ニ此説理ニ近シトイヘテ、實ニ穿鑿也、松ノ字、古

案ニ作ル、公ニ從ハ後世ノ省文ナリ、即且ハ至微ニシ

テ、公ニ從ヒ、獠粗ハ至劣ニシテ侯ニ從、ナンゾ蟲ノ長

タラニヤト云リ、其樹礫礫修篲トシテ節多ク其皮粗

シテ厚、鱗形アリ四時葉アリテ、二三月莖ヲ抽テ花ヲ

生ズ、長三四寸其處ヲ松黄ト名ツケ、功能多シ食物本

艸ニ見タリ、酒ニ釀シ、白砂糖ニ和テ餅ス久ニタヘズ

トイヘリ、日本ニモ松餅ヲ作ルト云、實ヲ結テ狀猪心

ノ如、豊テ鱗砦ヲ為、秋老テ鱗裂子落ル蜻蛉ノ羽ノ如キ

モノニ付テアリ、松栢ハ千年ノ壽アリ能門閭ヲ守ト

史記ニ見ヘタレハ、人家ニ必植ベキモノナリ

古今集 宗子ノ哥ニ

しきしきなる松のみやうとてなる松は今一はれまゝなり

拾遺集 重之ノ哥ニ

いふ事とゆかりの松は今一はれまゝなり

此外奇人尤多ク詠セリ。松草ハ雌松ヨリ多生ス。葉美

ク木皮赤シ。姫小松ト云。古今集 敏行ノ哥ニ

子早振か茂の節はゆかりの松は今一はれまゝなり

日本高砂尾上ノ松。曾根ノ松江別辛崎ノ松泉列界ノ

松ホ。尤名高シ委リ。後篇ニ出ス。又二針三針五針ノ別

アリ。秦ノ時。大夫ノ官ヲ賜リシ事。ユレ又後篇ニ出ス

故ニ爰ニ畧ス

和語ガビチヨウ

清音ワアイニヤウ

畫眉鳥

日本寶曆十壬午年

八番船

圖會西眉鳥似鶯而小黃黑色其眉如畫故以名之巧於作聲

如百舌

アニス ガビテウ ヲキキ 按ルニ西眉鳥ハ大ツグミホドアリ。拳身紅褐色眉白

シテ畫ケルガ如ク美シ外ニハ白毛ナシ。此爾黃眼紅シ

畫眉鳥ヲホ、ジロト。訓スルハ甚ク非也。ホ、ジロハ常

熟懸志ニ續眼見ト云モノ是也。歐陽公ノ詩ニ



壽帶鳥

鳥類圖譜

四

鳥類圖譜



畫眉鳥

歌麿 鳥畫 卷之二 八

身合... 三才

百轉千聲隨意移
始知鎖向金籠聽

山花紅紫樹高低
不及林間自在啼

櫻和名サクララ日本ニ云サクラト云モノ。唐山ニハナナク

皆花紅ト云。貝原先生ノ曰。文選沈休文カ早ニ定山ヲ

発ル詩ニ。山櫻發欲然。註ニ花朱色如火欲然也。又司馬

溫公ノ詩ニモ。紅櫻零落杏花開ト。是皆朱色ト云。寸ハ

日本ノ櫻ト云モノ。ナキコト知又ヘシ。長崎ニ来ル河

清甫ト云シ者モ。日本ニ云。櫻ノナキコトヲ歎セリ。若ア

ラバ。書ニ記シ詩文ニ賞詠スベシト云リ此證トスヘ

シ朝鮮ニハアリ。其國ヨリ。長崎ニ漂着セシ舟ニ見

タル故是ヲ尋シニ奈木ト称シテ二三月淡紅花ヲ開

愛スベシト。各シトアリ。宋景廉カ詩ニ

賞櫻日本盛於唐。如被牡丹兼海棠。

恐是超昌所難畫。春風説起雪吹香。

日本中世以來花ト称スルハ櫻ノ事也。奇人尤多是ヲ

詠ズ。其良材タルト。並モノナシ。唐山ニハ書ヲ刻ムニ

梓ヲ用ト云。日本ニハ櫻ヲ用堅シテ理密ニ。其マサル

事遠也。其皮ヲ刺テ器トシ。又物ノ鞞ヲ纏若木ノ皮ハ

捲器ヲ枯ルニ用。山中自然ニ生者ハ草ノ淡紅色ナリ

倍ニ淡紅色ヲサリラ色ト云モ。此花ヨリ出タル名也。

高麗果

六友舎藏

日本吉野山ノ櫻尤各高シ山谷林廉ヨリ峯ニテ東西數
 里ノ間皆櫻也麓ノ咲初ヨリ峯ニ至テハ三十餘日
 間サキツヅリ、如此美觀華夏蛮貊に有ベカラズ
 ト云リ、其花立春ヨリ六十五日アタリテ盛トスト
 云満山コトツク峯ニシテ、實ニ目ヲ驚ス今ハ紅白侯
 紅單辨重辨千辨簇サクト青キヲ帶ルトイトガリヲ
 ウバガリヲ、彼岸サリヲ、熊谷サリヲシガレサクラアサキサリヲ
 ニホヒサリヲホ其品類甚ダ多ク委ニルスベカラズ古今集
 業平ノ哥ニ

世にけふたかくて桜のふつとせばよきらんはも困かすよー

奥儀抄 贊之の哥

桜よりゆきさるむらさきこれあれあ〜〜と本を物なすうらな
 其實、ユクリシテ。紫黒色核大ニ肉薄シ味且美ニシテ
 ヨリ、魚毒ヲ解ス我郡松魚ニエヒタルニ此ホノ皮ヲ
 煎シ吞極テ効アリ。又一種フダン櫻アリ。夫木和哥集ニ
 伊勢にて九月さくら此咲くを人のむきをきりて修ら 長明

時あをゆきと桜乃花ゆりりてを紙ニてんていふへつとる
 コレ伊勢ノ国白子ノ名木ナリ此外八重二重丸カヘシ
 キリツホ、ワシノオ、アサギ、エモン、千モト、緋櫻等ソノ奇
 ナルモノナリ、其余ナラ奇ナルモノ多カルベシ

黃鸝

和語 クハウリ
清音 ワシリ井

日本寶曆十二壬午年

拾五番船

本綱黃鸝其色黃而帶物黑羽及尾有黑色相間尖嘴青脚

按ルニ黃鸝ハ雀ニ類シテ黃赤ニ腹白ク頂喉背腹共

ニ黒班アリテ紫脚青シマレニ渡スモノニシテシタク見

ス。王介甫詩ニ

野花吹盡竹始々

尚有黃鸝最可憐

煙婉不知緣雀事

背人飛過北山前

牡丹ホタン又花王云和名フカミ草又ハツカ草其花丹ク子ヲ

結ムストイヘ氏根ヨリ苗ヲ生ズ故ニ牡丹ト云紅白單瓣

モノヲ藥ニ用ク葉其外異品ノモノハ用ヘカラズト

イヘリ中華ニテ花王ト稱シ又花ノ富貴ナルモノト

シ唐ヨリ以來甚コレヲ賞ス尤洛陽ノモノヲ名産ト

ス歐陽永叔が牡丹譜ニ其名九十余種尤名アルモノ

三十余品トイヘリ矣穀子ガ詩ニ

牡丹妖艷乱人心

一國如狂不措金

曷若東園桃與李

果成無語且成陰

日本ニモ上代ハナカリシニヤ万葉集古今集等ニハ詠
セズ始テ詞花集ニ見ヘタリ 大政大臣藤原忠通公哥ニ

鵲
鴿



黃
鸝



鵲鴿 黃鸝

白
鷓



竹
鷄



鳥類考 卷之八 鷓鴣 竹鷄 白鷓

嘆一ちと教くろくもてス一やふ花のりくは事そはるふか
此花ヲヨリニ旬ホドアレバナリ。今ハ品類モ甚多リ
賞ルコモ甚盛ナリ。又一種冬牡丹アリ。八月ヨリ葉出
十月ヨリ。花サキ臘寒ノ時モ花アリ。良ニアヤシムベ
シ。實ニ奇品ト云ベシ

鶺鴒

和語セキレイ
清音ツ井リ

和名 ニハタ、キ トウキヲトリ
ニハクナフリ
雪姑 連銭

日本明和元甲申年

拾番船

圖會鶺鴒蓋雀之屬飛則鳴行則搖大如鷄長脚尾腹下白頸
下黒如連銭故謂之連銭其色蒼白似雪鳴則天當大雪故俗

呼雪姑

按ルニ鶺鴒ハ狀ヲカヤクキニ。類シテ青灰色頭小二
尾長リ嘴尖頰腹共ニ白胸ニ黒支アリ毎ニ水邊ニ居
鳴テシキリニ。尾ヲ搖ス歌人尤多ク是ヲ詠ス万葉集
ニ箱負鳥ト云モノハ。此鳥ナリト。サレモ未詳ナラス
詩小雅ニ脊令有原ト云モノ是レナリ。

燕子花 和名カキツバタ。福列府志ニ出タリ漳列府志ニ
紫燕子花ト云モ。同物ノヨシ。杜若ヲカキツバタト云来
ドモ。甚誤ナリ杜若ハ和名ヤブミヨウガト云。葉ハ薑
ニ似テ。花赤ク。實紅ナリ燕子花ハ濃紫色ニシテ。水中

二生ズ。白花ノモノ陸生ノモノ四時花ナリ。モノアリ
夫木集ニ

昆陽此他のあやふしき草花に似たり。花人々を驚かす。

又一種莖ノ高サ。二三寸甚ダ小ニシテ。正月ニ花ヲヒ

ラク湿地ニ宜ク。水中ニヨロシカラス奇品ト云ベシ

北行。又蒼ト云。和名ニスナハ。詩周南ニ參差タル荇菜ト云

是也。睡蓮。蓴。蓴。三種甚ダアヒニタリ。ヒツゲ草ハ花白

シテ。夜ハツボミテ。水中ニカクレ昼又水面ニウカブ

故ニヒツゲ草ト云。又ナハ。葉小長シテ飲ケズ莖ノ

メグリニ氷ノ如ナル物アリ。蓴ハ蓴ノ葉ノ切レガル

ニ異ニシテ。其端合シ。草ノ黄花ヲ開キ莖長シテ。水ノ

淺深ニ從江州唐崎ノ水中ニ多シト云。北行ヲアガト

云ハ誤ナリアガトハ是ト同ジカラズ水上ニ根アラハルニ

白鵬

和語ハクカン

清音ベヒエシ

日本明和六己七年

拾番船

圖會賦序白鵬羽族之幽奇也。素質黑章。爪嘴純丹。體備冠距

神貌清閑。不雜於衆禽。本網侶山鷄。而色白。有黑紋。連漪尾長

三四尺

按ルニ白鵬ノ唐山ヨリ来ルコト百三十四十年ニ過ズ狀

錦鷄ニ似テ白ク細黒文アリテ連崎ノ如シ。頬脛アカ
 リ。冠腹黒ク距アリテ尾ノ長サ三四尺。憤尤大ナリ。雌ハ
 黄赤黒斑ニシテ嘴ハ雌雄共ニ蒼ク眼黄ナリ。今多ク
 日本ニアリ。此鳥ヲ以テ白雉トスルハ誤ナリ。天明二寅
 春我郡ノ山中ニ或人白キ鳥ヲ獲テ奇ナルヲ以テ是
 ヲ余ニ遺ルコレヲ見レハ白雉ナリ。既ニ鳥銃ノ為ニ
 死セルヲ如何イカニスル事ナシ。甚恨ムベシ。是雉ノ白キ
 モノニシテ鵠ト相忒ルコト遠シ。舉躰純白ナラズ。腹ト
 翼ニ少シ班アリテ。俗ニ矮鷄ノ基石ト云ニ畧同シ。
 人皇三十七代孝德帝ノ朝ニ長門國ヨリ奉リシ。モノハ

純白ナリト見ヘタリ。魏野カ白鵠ノ詩ニ

山鷄形狀鶴精神 文似漣漪動白蘋

物異恩殊堪愛重 廟堂人寄草堂人

李白詩中閑未識 謝莊賦裏見長思

今朝得爾心雖喜 致謝慚無吐鳳詞

虎耳草又石荷葉ト云和名ユキノシタ。又キジン草。石上ニ
 生ジテ一莖一葉ナリ。故此名ヲ得ル葉裏薄紅蔓生ス
 夏莖ヲ生ル。五七寸ニシテ。花サク。白シテ二斤ナリ
 他花ニ異ナリ。又標末ノ一花ヒラキ。後ニ下委開クヲ
 異トス。蔓ヨリ根ヲ生ジテ活ヤスシ。多ク花サキタル

ハ。愛スベシ。葉ヲ黒燒ニシテ性ヲ存シ面瘡ニヌリテ
極テ効シアリ

竹雞

和名チリケイ

清音チキイ

日本明和四丁亥年

六番船

本綱竹雞狀如小鷄無尾形比鴈鳩差小褐色多斑赤文圖會
自呼泥滑々今吳中竹內多有之

梅ルニ竹雞形鷄ノ如ク青紫黃ナル脚頰白喉薄紅ク
臆前ニ淡蒼キ毛アリ。舉身紅褐色ニシテ斑彪アリ。瞬
淡蒼翮ニ白キ圓点アリ。好ンテ蟻ヲ食ト云泥滑々ハ

清音ニイワナリ。爰ニ圖スルハ宝曆安永ホニ来ル
モノト。同シカラズ後篇ニ多由ス朱文公揚廷秀泥滑々
ノ詩アリ。

鼓子花和名ヒルガホ。本綱ニ蔓生葉ハ薯蕷ニ似テ長ク
花紅色ト云是也。葉圓キト岐アルト。二種アリ。花ハ同
牽牛花ニ似テ淡紅畫シボマズ。故ニ名ヅクナルベシ
又白花アリ。所在ニ多クアリ。根ヲ鹽ニ和シテ煮食ス
葉モ食ベシ。凶年ニハ飢ヲ助クト云唐山ニハ花ノ千
葉ナルモノアリト見ヘタリ

鴨跖草和名ツクサ。又月クサ氏。アヲハナ氏云本綱ニ



十姊妹



白頭翁

鸛
鳩



鷓
鴒



胸淡黑。ナラ後篇ニ出ス。背黑脊令ヲ此鳥ナリトスルハ誤ナリ。宋魏野カ白頭羽ノ詩ニ

有何辛苦有何愁 箇々林間盡白頭

細葉累巢花影暖 微虫共食竹蔭秋

清音堂許黃鳥伏 素羽曾教白鷺羞

唯爾鬢毛應似我 相逢不用話因由

枇杷木ノ高サ丈余葉スコシ。栗ニ似テ大ニ。背ニ黄ナル

毛アリテ。四時凋マズ。盛冬白花ヲ開キ。四月末ニ實熟

其子簇結テ皮肉凡ニ薄核大也。渴ヲ止ルノ能アリ。五

雜俎ニ。枇杷熟シテ。醫者イソガハシトハ。時候ヲ云ナル

ベシ。毒アルニアラス。本綱ニ。實ノ白モノヲ上品トシ。

黄ナルモノ。コレニ次。後ナキモノヲ。焦子ト名ツケテ。

廣州ヨリ出ルトアリ。餘冬序録ニ相如カ上林賦ニ。盧

橘ノ枇杷タルヲ知ラズト云ハ。卻テ何孟春カ誤也

其材ノ直ナルモノ木ノカトナシテ。甚佳シトナリ。和方

ニ。枇杷葉湯アリ。各方ニシテ。食傷霍乱ニ神妙トス

裏ノ毛ヲ能サラサレハ。吐スルト云

十姊妹

和語ジウシバイ
清音シツイムイ

日本寶曆十二壬午年

九番船

此外奇人多ク詠アリ和歌ニモミチト云モノ十種アリト云。諸木秋冬霜ヲ經テ紅葉ウルハニキヲ栂紅葉ノ字ヲ用イテスベテモミチト云サレ氏此樹ヨリ出タル名ニシテ此樹ノウルハニキニシカズ

鷓鴣

和語 ヤウキン
清音 ヤウギン

圖會釋鳥云江淮而南青質五采皆備成章曰鷓鴣是也

按ルニ鷓鴣ハ鷹ノ別名トシ又雉鷓鴣一物トス圖會鷓鴣ト云モノ爰ニ圖スル鷓鴣ノ種類ナルカ其詳ナルヲ

ヲ知ラス毛色品々アリテ名ヲ異ニス頭ヨリ背ニ至淡紫ニ腹淡赭喉羽尾黒翼ニ白中ニ横ニ青点アリテ紫淡蒼シユン色ナルハ紺鷓鴣ト云キ色ナルハ黃鷓鴣ト云。

山茶和名ツバキ。日本古書ニツバキヲ海石榴ト書イッノ頃ヨリカ椿ヲツバキト讀来レリサレ氏椿ハツバキニ非ズ香椿トテチント云。花ナリ實ナシ長崎福濟寺關帝堂ノ前ニアリ寛文ノ頃唐山ヨリ来レリト云其葉兩々アイ對シ葉ノ中ハ助紅ク香アリ根ヨリ苗ヲ生シテ叢生ス若葉ノ時煎茶トシ又末シテ茶ニ点ズ

香佳ニホイシト云。山茶ハ葉極ハテ厚アク。面オモテニ光ヒリアリテ
 實ミニ脂アブラ多クク。毒ドクナシ好ヨウ事コトノ者モノ。諸品物モロモノヲ煎シシ食味シヨク胡麻アヲコ
 油ヨリカロク。マサレリト云。燈油ト為ナシテ。煙ケムリナリ極
 テ妙ナリ。刀劍トウケンニヌリテ。鑄サビヲ生シヨウセス。故トニ自鳴鐘トケイニ此
 油ヲ用ユ。本綱ニ婦人髮カシ臍ヘルニ研末スリマツシテ之コトヲ摻スリヌルト
 今イマ誡コトルニ神効シニコウアリ。吾郡此葉アハヒニ石叟アハヒ明ノ生ナナルヲ包アツ
 ニ久損ヒサレクソンセス。又花カケヲ蔭カゲ于ニシテ。末コノニシレシキミニ合マセテ燒シク
 ハ香カヨク燒キヤスシ。朱文公ノ詩ニ
 江南池館厭深紅ス 零落山煙山雨中
 却是此人偏愛惜ス 數枝和雪上屏風

日本紀ニ天武天皇十三年三月吉野ヨリ白ツバキヲ
 貢コウセシ事ヲ載ノセタリ。メヅラシカリシニヤ。寛永ノ初ハシメヨ
 リ。數多アタタ出イ未テレリト見ヘタリ。烏丸光廣卿ノ百椿圖
 序ニ此世ニモテハヤシ品ミナ多クリ出イ未レリトアリ。今イマハ
 紅白草辨アカシロヒトハ重辨フタヘ千辨ヤハ其品甚多シ玉島南京十輪トウ亦モ有キ
 奇ナルモノナリ。其ソノ余ホカナラ奇品多クカルベシ

鷓鴣

和語 シヤコ 清音 チエークウ

日本明和四丁亥年

三番船

本綱鷓鴣形似母鷄頭如鷄臆前有白圓點如真珠背毛有紫

赤浪文其性好熱畏霜雪早晚稀出夜栖以木葉蔽身其飛必南向雖東西回翔開翅之始必先南翥其志懷南不徂北也俗謂其鳴曰行不得哥也

按ルニ鷓鴣ハ矮鷄ノ雌ニ似テ臆ヨリ背ニ至テ黒キ中ニ白キ圓点アリ日本刀劍ノ鞘ヲ飾ニ用ル加伊良岐較ト云ニ同シ翅腹ノ羽ニモ又斑彪アリ脛黄ニテ距アリ頬白眼ノ辺黒背ニ浪文アリテ尾短シ雌ハ茶色ニシテ翹白毛羽尾ニ白横筋アリ圖會ニ其鳴声ヲ釣軒格磔ト云清香キイケキツト云行不得哥清香音ヒニホテコト云然レ氏余イマダ其鳴声ヲキカズ

日本ニ渡ス事マレニシテカ珍トス藻塩草ニ

鷓鴣といふも此と尾の紅ふ散一紅まののふとふり
カクアシハイニシエ渡リシニヤ梅聖俞カ鷓鴣ヲ失フ詩ニ
愛玩日已久 開籠為馴故 點臆雪花圓 連袂浪紋素
釣軒格磔鳴 耗耗翻翁本 誰知煙渚深 緑水脩篁處
日本九州ニシヤリナギト云モノアリ水鳥ニシテシギノ
類ナリシカルヲコノ鳥ナリト云ハアヤマリナリ

海舶來禽圖彙說 大尾

朱筆
眼鑑

（200）
2005
2005
2005

廣徳元年

文久三年

文久三年



Small handwritten notes at the bottom left corner.

